



社会福祉法人 大和しらかし会 会報 Vol. 9

2020年11月25日発行

児童発達支援センター第1松風園は、地域における中核的な支援機関として、通園での療育支援の他、保育所等訪問支援や障害児相談支援、障害者等自立支援法に基づく日中一時支援などを実施することにより、ご家族への支援や地域全体の質の向上に努めています。令和2年度は41名の子どもたちが週5日、週3日、週2日とそれぞれのニーズに応じたご利用方法で登園されています。

さて、令和2年3月、学校の一斉臨時休業の要請から始まり、4月の緊急事態宣言の発令と令和2年度は当初から新型コロナウイルス感染症への対応に、より一層の危機意識持ち取り組むスタートとなりました。日々、感染者数に一喜一憂し、コロナウイルスという見えない相手に翻弄された日々のなか、4月のある新聞のコラムにこのような一説がありました。『大きな転換をもたらす出来事を「ゲームチェンジャー」という。コロナ危機はその最たるものかもしれない。社会への影響が避けられないなら、よりよい方向へと議論がなされていていい』と書かれていました。この記事が目にとまってから、できないことに注目していた意識から、コロナ禍にあっても、感染症対策の徹底や工夫により、この機会にこれまでできなかったことをやってみようという意識に変化していきました。そして、これまでの福祉サービスを維持するだけでなく、「できることから少しずつ」そして、「無理はしないがあきらめない」という思いを新たに、7月の個別の家族支援から始まり、勉強会、遠足、パパ散歩、家庭訪問、懇談会とこれまでとは違った取り組みを試行錯誤しながらゆっくりと歩を進めているところです。

11月に入り、令和2年度の取り組みを振り返る時期になってきました。この貴重とも言える1年を振り返り、令和3年度にどう繋げていくか問われるところだと思います。子どもたちやご家族が地域のなかで健康的な生活を送ることができるよう、職員皆で深みのあるアイデアや工夫を出し合い、ご家族や地域に求められていることと自分たちが求めていることのズレを丁寧に考えていきたいと思っています。



これまで、月1回、定期的にも実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、9月よりリモートで各事業所をつなぎ開催できるようになりました。浮足立つ世相のなか、学び続けることの意味を改めて考えさせていただきました。



生活介護事業

第2松風園

園長 岡田 和裕

第2松風園は、法人の基本理念である『障がいの有無に関わらず、すべての人が一人の人間として生きていくために人権は守らなければなりません。さらに、人として社会の中で自立した生活を送るため、また地域の成員として、また、共に生きるものとして障がいを有するもの自身やその家族、地域、行政それぞれが相互にその役割と責任を理解し協力し合い、心を合わせて支援する体制が必要です。』

当園が長期にわたり大和市における療育の拠点として支援に当たってきた足跡と使命を継承し、新たなサービスの提供主体として、大和しらかし会を設立し、地域社会の中で暮らし、家族とともに歩み、自らが望む生活を営むことができることを願い、障がいを有するもの自身とその家族、地域、行政との協働の拠点となること』を基に大和市障害福祉センター松風園の2階を支援場所として事業を行っています。

成人の利用者さんを支援するうえでは、特に下記の内容を重視して日々の支援を行っています。

- ① 内在する人間性を理解し、社会の一員として成長するよう支援します。
- ② 一人ひとりの能力を把握し、その能力を活かし、社会の一員として自立した生活が営めるよう支援します。
- ③ 社会の一員としての基礎知識の体得、社会適応能力を持てるよう支援します。

第2松風園の支援の取り組みの一端として、今回は作業支援についてご紹介いたします。利用者さんは現在59名の方が契約され日々45名ほどの方が通っていただいておりますが、様々な個性と今まで培った能力を活かした作業の提供をしています。授産作業としてハンガーの袋詰め、金具ボルトの袋詰め、自主製品として革製品やクラフトバンドでの日用品の製作、農作物の栽培などを行っています。その他では季節に合わせた飾り物や養護学校の卒業生の胸に付けていただくコサージュなども製作も手掛けています。コロナ禍においては不足をしていた布製のマスクの製作に取り掛かり、安価でお渡しできるように努力をしています。

第2松風園の利用者さんが製作した自主製品にご興味がありましたら、是非ご連絡をいただきたいと思っております。販売、受注に関しては、担当者より丁寧にご説明させていただきます。

宜しくお願いいたします。



クラフトバンドの網籠

お正月お飾り

本格革のステーショナリー

お知らせ



R2.11

R2.11

令和2年(2020)年度 with コロナ TAKAMURA's in YAMATO

～大和自閉症連続オンライン勉強会～

「自閉症とはどのような障害なのか、将来を見通しながら学びたい」という希望をご家族の方々から数多くいただきました。身近な場所でのような形で、実現できるかと長年考えていたところ、重一誠先生に快くお引き受けいただくことができ、2001年から、大和にお越えて、継続的に勉強会を行ってまいりました。継続の開催を希望される声が多く、今年度で19年目、通算100回を越えました。

自閉症の人たち、ひとりひとりが「豊かな生活」や「幸せな人生」を送るためには、日々の生活の中にもどのような工夫や取り組みが必要なのかを分かりやすく、お話しできたく予定です。

◆コロナウイルス感染予防対策のため、

「ZOOM」アプリを利用したオンラインでの研修会といたします。

オンラインの受講手続きをさせていただければ、ご自宅のパソコン、スマートフォン、タブレットから受講いただけます。

記

講師：重一誠先生 <一般社団法人「重Takamura協会」顧問>

日程：第109回 令和3年1月8日(金)「生活の自覚①」

第110回 3月12日(金)「生活の自覚②」

時間：午後6時30分～午後7時30分までには終了

(講義のみ リアルタイム配信 とします)

対象：自閉症スペクトラム障害の児童の保護者、関係職員、自閉症に関心のある方
(1回のみ参加でもかまいません)

申し込み方法：参加登録申し込みを、メールで行ってください。
(詳細は、裏面をご覧ください)

参加費：無料

主催：社会福祉法人 大和しらかし会 松尾麗
事務担当 五城 氏 TEL:046-274-2426 FAX:046-278-9048

1/2

TAKAMURA's in YAMATO

～大和自閉症連続オンライン勉強会～

<講師紹介>

重一誠先生は、50年以上にわたり、東海大学病院や東やまた工務などで、心理士の立場で、常に現場に身を置かれ、小さな子どもから成人まで、多くの自閉症の人たちやそのご家族といっしょに歩み、その方たちを支えてこられています。

<受講方法>

テレビ会議システム「ZOOM」を利用して、オンライン勉強会を受講する方法

- 手順1：あらかじめ「ZOOMアプリ」をダウンロード・インストールしておく。
手順2：勉強会当日、各回のオンライン受講者にメールで配信されたURLをクリックする。
手順3：ミーティングに参加する名前を「個人ID」(「受付番号+お名前」)に変更する。

<申し込み方法>

参加希望される回の3日前までに、参加登録申し込みを、メールで行ってください。

1回申し込み登録されましたら、今年度中は、次回からの申し込みは不要です。

申込先 houmon-shofusen01@oak.or.jp <以下の内容でお申し込みください>

- ①氏名：タカムラズ会の受講申し込み
- ②参加者名
- ③自閉症の方とのご関係：ご家族 / 支援者
- ④所属：ご家族の場合は、自閉症の方の通っているところ(学校名など)、学年(年齢)
支援者の場合は、支援者の方の所属機関
- ⑤メールアドレス (その後の連絡はこの登録アドレスで行います)
- ⑥電話番号 (オンラインの不具合などの場合に、連絡できる番号)

<申し込みの受付>

①登録申し込みをされた方に、受付と同時にご個人ID(「受付番号+お名前」)をメールでお知らせします。

受講当日、ミーティングに参加する名前を「個人ID」に変更してください。

<登録された方に、各勉強会の前日までに、メールでレジュメと受講のための「ZOOM」URLをお送りします。>

以下の行為はご遠慮ください。

- ・メールやSNS(Twitter/Facebook など)で、「ZOOM」のURLを、ほかの方に知らせること。
(登録された方以外のお名前での視聴はできません。1つの画面を、ご家族や職場などで、複数の方でご覧いただくことはできません。)
- ・ライブ配信された映像を録画、録音などすること。

2/2

編集後記

会報 Vol. 9 が完成しました!!

11月に入り 冬のような寒さの日や
夏のような暑さの日、気圧の変動など
で体調管理が難しいですね。

今年も早いもので残りわずか3ヶ月...
月日が経つのが本当に早いです...

担当 蓮見

発行者

社会福祉法人 大和しらかし会

〒242-0005

大和市 西鶴間2丁目24番1号

TEL 046-274-2426

FAX 046-276-9049

ホムページ

www.oak.or.jp